

## 国産集成材による地域林業振興への道

三陸木材高次加工協同組合 前理事長 中川 信夫

ただいまは、大変ご丁寧なるご紹介をいただきまして本当に感激で一杯でございます。

そしてまた、今日こうして記念すべき14年度の技術交流発表会の席に招へい頂いたことにつきまして、生涯忘れられぬ人生の一ページをここに刻むことができると本当に満足しております。

私、先ほどご紹介をいただきましたように、ボールペンの一先ほどのあの小さな日本海の佐渡島に生まれたわけでございます。皆様とは生まれた時代も環境も違うわけです。

なぜ、あんな小さな佐渡の島からこんなとこまで来ているんだと、また、この短い足で全国を股にかけて歩くんだ、そのエネルギーはどこにあるんだと。

皆さんと違い私はこの職業を好んで、また希望して入ったわけございません。生まれた時代、環境が違います。当時、ご存じの方もいらっしゃるでしょうけど、水飲み百姓の三男坊です。長男は倅といいます。次男は次男坊だと、三男坊は三兵というんです。不作の時には米と交換される時代です。それが百姓の悲哀でございます。4番目は一番最後ということで、これは近傍の大学へ入れましよう。教科書においてもしかりです。三番目になりますと活字が見えないんです。それで成績良くなれというのはこれは無理な話です。そうしたひがみのせいもあってか、他の兄弟は非常に背も高く男っぷりも良いんだ。しかし、3番目はどうもこのとおりの出来損ないの突然変異として、村の7不思議として語り継がれているわけでございます。

そうしたことで我々の時代、戦火に散ることが一つの目的でございました。それが昭和20年8月予科練の試験を受けて合格をしてそのまま敗戦でございます。誠にその少年の夢が破けたわけでございます。

当時を知る人は、皆さんご存じのように食べることに、今晚住む宿が必要だったんです。そのために私は佐渡を後にしたわけでございます。20歳に出まして丁度51年目になります。皆さんと違い同級生もおりません。友達もいません。周囲全て他人です。敵です。その中で生きるということの難しさ、希望よりそうした厳しさの方が本人にしては辛かったわけですが、今は懐かしい思い出として残っています。こうして高い壇上に、大盛会のこの会場に招かれたことによって全てが消えるわけでございます。

ご紹介いただきましたように十数年間山陽木材の現場を持って歩きました。食べることは心配ありません。全て会社の負担でございます。こうした中で転々と現場が変わるわけです。その間に立木調査をしなきゃならん、伐出の方法を覚えなきゃならん、流域により県により林相も生育状況も変わる計画書を作成しなきゃならん、会社に協議をしなきゃならん、だけど必ず短縮されます。それが企業の使命です。良くできたと褒めら

れることは一言もないんです。利益をもたらすのがあんた達の職務なんだ、当然のことなんだと。十数年間係長にもなれないで終わったのは私一人じゃないかと思います。

当時の山陽木材は字のごとく広島が本社でございます。便宜上東京にも本社を、2社制をもってやっています。あれは専務しかいないんです。会長・社長全て広島におります。重役・課長以上は全部広島から派遣されてきます。頭のいいのもおるけどあんまり良くはないです。東北の人の方が頭がいいです。そうしたことで私の上司であります課長が広島から来て駅頭まで迎えに行つて、ああこの課長かということで一生忘れられない上司でございます。一山で3千万の損をしたんです。即、降格です。第一課長がただ頭のない課長でございます。部下もいないただ裸の課長として数年間塩釜におりました。そうしたことでいくら息子であろうともやはり厳しい機構でございます。

それだけに東北の塩釜、新潟工場を買収して、そして北海道の室蘭、北見に2工場を作り東洋一の工場として、皆さんご存じのように戦後急速に伸びてきたわけです。というのも敗戦の復興により電柱材が優先なんです、そのときは枕木も木材なんです。やはり都市部を形成すべきとして近鉄、西鉄、名鉄とご存じのように市街地を形成しながら延長してきた、そうした隆盛時のお上の御用商人です。

木材の「なら」「くり」がなくなって初めて「ブナ」を使用したんです。ブナは当時チップでもそんなに効果はなかったです。家具用材としても最低品だったです。木辺に無いと書いてブナなんだと。林野の方々がよく見えるときに、今度字を変えたらいいじゃないか、木辺に有ると書きなさいと。今一番水の吸収力また放出量についてもブナが重宝がられております。そうした森林の有効性また公共性を、今この事業ほど大きく叫ばれた時代は無いんじゃないか、叫ばれている時代じゃないかと。CO<sub>2</sub>の削減から始めて皆さんよくご存じでしょう。今、日本の森林の評価75兆円です。世界第二位の経済大国日本のほぼ1年の予算に匹敵する効果をみておるんです。皆さんとともに日本の林業はかくあるべきで大きな恩恵を受けているんだよと、これから我々が取り組む時代じゃないですか。まあ、私一人でそのような合点をしているわけですが、皆さんはいかにお考えかそれぞれでございませうけど。

いずれにしても私は旨い酒も飲ましてもらいました。この間も能代の金勇さんに行つてきました。芸者が当時60人いたそうです。毎晩ドンチャカドンチャカと笛や太鼓で24時間流行ったんじゃないかと、あの隆盛時を我々の手で取り戻す使命があるんだよ、それを忘れてはならないだと私は代弁させていただきます。

阪神淡路大震災を境として木材は弱いんだとか、そうしたレッテル、烙印を貼られたことも事実であります。しかし丁度その前にバブルがあり、詰まって動けないときにまたポット出てくるんだ。その以前にそれじゃ林野でやろうじゃないか、ドライログ乾燥材としての有効的な活用を図ろうじゃないか、そうした中で成功せずして、成さずしてポンポンポンとバブルが消えまたはじけ、阪神大震災が起こり、その前に島フクロウのアメリカの問題があつて、ああ、また今度もいい時期来る今度もまたいい時期が来

ると、で消費税の駆け込みがありました。

そうした中でグリーン材がどこまでも通じるんじゃないか、そうした錯覚を持っていたのが林業界ではなかったかと思います。昨日カラスがとまったものを明日は台車に乗せて丸の物を角に挽いている時はよかった。それがやはり転落の一步ではなかったかと思います。

今の時代どこでも売れないんだと嘆く。消費量も相当減退してきました。4～5年前1億 m<sup>3</sup> の総需要量がありましたが現在は8810万 m<sup>3</sup> しかありません。その中において輸入材は7200万 m<sup>3</sup> です。国産材は1610万 m<sup>3</sup> しかないはずです。たった18%です。戦後先輩が額に汗して植えた森林が10年生あり、20年生あり、また40年生ありで年の生長量7000万 m<sup>3</sup> です。その中で秋田もさすが森林王国と言われるだけあって豊かな緑に現在生長しております。それをどこに生かすのか示唆がないんです。

それで、三陸木材高次加工という長ったらしい明治時代の呼称がそうでございます。その名付け親も私でございます。わかりやすく説明するのもいいんじゃないかと、説明の必要性のないように一目瞭然にわかるように。また、今春4月操業予定の「さんりくランバー」も名付け親です。

そういうことで今、世の中何を要求しているのか、やはりエンジニア王国です。工業化成品です。グリーン材はまったく売れないです。それを使えという方が無理なんです。要求されるものを供給する時代でございます。だから時代は常に変化を重ねながら回っております。先ほど紹介をいただきましたように、私は10年を一つの区切りとして、同じ木材ですけど流れをつかんできたつもりです。昭和48年～58年までは「原木市場の開設」、昭和59年からは「山土場から庭先まで」の直送による中間経費の削減と流通のスピード化、昭和48年以降は「林業機械化の促進」で伐出経費の削減の先取り。

だからいまもって3万 m<sup>3</sup> の立木を全部100%競争入札で高く買います。堂々と高く買います。あの佐渡の島には味わえない優越感を味わっているわけです。青森分局の会議室はもっと立派ですよ。グリーンテーブルにね、緑川さんと二人で並ぶんですよ。高額買い受け者が。林野庁長官賞を何回もらったことでしょう。だから苦労も一気にあの1枚の感謝状で吹っ飛ぶんです。俺が東北一なんだよと、日本一なんてことは考えていませんでしたけど。最近よくジャーナリストの話では、3万 m<sup>3</sup> を随契1本もなく競争入札で買って、素材の販売をやってきたというのは多分日本一だったんじゃないかとかこんな話をしています。私は歩いた道、事業を振り返ることはしない。失敗は明日の糧として活かす。

まあ、いつれにしましても私の人生、あの飯場にせんべい布団を敷いて入ってから50年、現在ある道のりは長いようで本当に短かったです。まったく苦労というものはないでこなかったわけでございます。ただ、33歳の時重役に呼びとめられて、中川君、君は独立しなさい。チャンスを与えると。材木屋になることについては大きな抵抗がござ

いました。親兄弟全て質に入れなくちゃならんじゃないか、1億2億の損失は朝飯前の時代でございます。そうした中でチャンスを与えと言われてもこれくらい辛い厳しさを突きつけられた要求はございません。というのも担保はいりませんよ、資金は会社で1億でも2億でも出しましょうと、それが信用なんです。信用とはいかなる財産にも勝るっていう例えのとおりです。こんな裸一貫の玉二つ下げている男です。それに1億2億と金を貸すというのだからやはり並の経営師ではないんじゃないかと。私は、今ここに本当にあの上司があって始めて自分があるということを悟っているわけでございます。「人間は逢う人により人生が変わる」の諺がございます。

まあ、そうこうしているうちにそれじゃあ材木屋になって何がやれましょう。先ほど紹介されましたように親会社に電柱を納めていたが。しかし、オイルショックの兆しが前からありました。もう電柱は斜陽産業なんだ、これからは住宅の時代なんだと、その住宅が今秋田にも多く建っています。衣食住といいますが衣食は十分です。私始めそうです。歯ばかり抜けてもう旨いものなんか食べたいとは思いません。やはり粗食が一番です。あのチツポケな大船渡の街にもホームレスがいます。それがこの間なんか体に変調を来しおかしいということで県立病院で診察したら糖尿病だったんだと、あんた何を食べていたかと聞いたら、レストランやホテルの裏へ行って旨いものばかりあさって食べていたと。確か秋田にもそうした人が何十人かいるんじゃないか、それだけ飽食に過ぎる時代です。

着るものだってそうです。100円あれば全部下着も買えます。洗うより買った方がいい時代です。ユニクロ商品として24時間現地から直送され、あれもアツという間に消えてしまいました。そうした時代の推移について行けないそれだけ流通というものは、このグローバル化の中において厳しい流れを見ているわけでございます。

反面、住宅においてもしかり、兎小屋同然です。この姿が経済大国日本の姿だろうか。だから後進国の皆さんが日本に来まして、日本はなんと珍しい住宅に住んでいるんだということで卑下されていることも事実でございます。

私は、秋田の天スギ350年生をふんだんに使って40坪の別荘を建てて、今、冬でも汗をかきながら肌着一枚で暮らしております。それが気密住宅であります。快適な住まいであります。夏になればエアコンをまわして快適温度にセットして昼寝もできます。

住宅だけは、非常に日本の住宅はみすぼらしいです。そして雪国ほど何か貧弱なんです。皆さんもよく旅行されましょう。出張されましょう。西へ行くほど立派です、住宅は。私も、現職中に福井から滋賀、和歌山、三重あの関西方面までどんどんと優良品の秋田のスギを送りました。そうした中において、こちらの産地はどうかといいますと、雪が降れば軒の垂木が折れるなど本当に痛ましい建築でございます。その建築がこれから100万戸切れるんじゃないか、5年後には70万戸切れるんじゃないかとか、いろんな憶測ばかりで物事を言う人が非常に多い時代になりました。私は、けして木造住宅は衰退はしません。前年13年度は14.3%の減少でございました。14年度はたっ

た4.2%の減少です。木造軸組住宅は401千戸を超えています。木造と名のつくのが50万戸ここに実績を見ているわけです。それでは皆さん今、日本の住宅メーカーで1%、4千戸の住宅を建設するホームメーカーが何社ありますか、たった1社しかありません。それだけ大きな市場を持っているのが住宅です。また、先ほど申しているように国産材での82~3%が目の前に市場が広がっているんじゃないか、それをいかにしてつかむんだ、なんで逃がすんだかと言いたくなります。それはやはり努力が足りないです。楽して高賃金を獲得しようとするような、まあそうした考えは今捨てるべきだと。要求に応える供給、即納できる体制が求められます。

皆さん北欧やドイツ・フランスに行って林業地を視察したことがあるでしょう。アメリカに行った人もいるでしょう。日本の大体3分の1以下で製材も伐出もやってるんですよ。そうした形を見てどのように評価してきましたか、もうやる気を失った、そうじゃないんです。やはり大口収穫と機械化を図ればいいんですよ。

私は、プロセッサの使用第1号です。グラップルもスウェーデンから買って日本の第1号です。それがために何処へ行っても山が買えるんです。そうした取り組む姿勢ができていないんです。前向きの姿勢です。トラックは秋田の大曲から大船渡まで2回づつ歩きます。2日分の給料をくれます。毎日歩けとは言わんです。そうしたことで収入も多くなれば働くいい人材が集まってきます。やはり改革なき林業においては、これは挫折せざるを得ません。そうした今までの経験からしまして私は声を大にして叫ぶことができる心情となってきたわけでございます。

先ほどご紹介いただきました、三陸木材高次加工は平成9年に約15億3千万の総事業費の投入で施設の認可を受けました。その前の課程、1ヶ月前には27億の予算を計上したわけです。申請するやいなやバチッと林野庁で外されました。国産集成材は成功しない、だめだ。でも何が何でもやりたいんだと、その火付け役が仙台の地域ビルダーです。ホワイトウッドを使ってきたけど1年に数千万円の処理料を払うんです。これだけ生長した国産材を使いたい、その点気仙林業はなかなか前向き姿勢であるからなんとかスギの集成材を作ってくれないかと、そうした要求の下にスタートしたのが約27億の予算計上でございました。あんた達眼暗じゃないか、10億でいいよ、その代わり肉付けをしなきゃならないんだ、不足の機械が出てくるんだよ、あまりにも無謀じゃないかと私はそれを諭したんだけど、いかんせん流行りに流行っているんです。

昭和60年に気仙木材加工連合組合といって製材工場を約3億で始めたんです。今、17、8年になるんですけど順当に業績を伸ばして自己資本で運営できます。全国でもめずらしい製材施設です。そうして平成5年にプレカット事業が設立されました。約6億投資でございます。プレカットは今、全国に900工場あります。だから集成材と違って機械も安いんです。それが後から話しますけど、もうプレカットは淘汰の時代です。効率の良い機械を開発して大型化がどんどんどんどん進んでおります。それじゃあさっきの40万戸です。それが全てじゃないんです。約80%がプレカットです。シェア3

2万戸です。32万戸を900工場でやるといったい1工場当たりいくらになりますか。大体プレカット工場の効率は500棟以上切り込まないと採算ラインには乗りません。300そこそこでは経営は不可能でございます。だから先ほど申しましたように、プレカットは300淘汰されます。600あれば十分です。そのくらいでなんとか維持していけるのが精一杯です。いま流通の要がプレカットで占めていることはご存じのとおりです。もう「市場」は全て必要性はないです。各大手流通業者はプレカット納入の方が売り上げが大きいです。

確かに先ほどお話がありました金山町の、あしたの裏山の木で家を建てること、これは必ず残ってもらいたいです。やはり技術の伝承もしてもらわなきゃならん。また、国産材の良さも見直してもらわなきゃならん。しかし、住宅メーカーに供給するのは精度と強度を求められるんです。なおかつ価格の安いこと。今、木材は1棟あたり総工費のテンパーセントを切っています。集成材はグリーン材より安いです。それをいかにして採算に乗せるかというそこに頭を多少使うんです。

よく視察に月5・6組の集団が来ます。2・30名で来ます。その中で集成材とはなんぞやという原理をあなた方解いてください。読んで字の如くです。木を集めて作るのが集成材です。長いのをブツブツ切って繋いで作ったんじや意味成さないんだよ、短いのを繋いで始めて生かすのが集成材なんですよと。そのためには秋田、山形、青森この東北地方が一番優勢地でございます。九州の方は大変です。近畿・中国地方も大変でしょう。しかし、日本海側は雪が降りそのため根曲がりが多いからB材が非常に多く生産されます。まあ、そうしたことで先ほど局長室におきまして、お宅の川喜多局長さんとちょっと触れましたけど、秋田に4千町歩の山を持ってますハウスメーカーの古川さんでございます。当時第一回の分科会から私を引き合いに出してくれました。そうしたことで色々検討を重ねてきました。だから集成材を成功させるのはB材の活用なんだと。鹿児島ヤマサ木材の社長さんは学者です。勉強家です。そうして私と同じ意見で合致したんです。やはりB材活用で始めて集成材は成功するんだと。4mのB材を集めて1mにカットしてそしてラミナを挽いて。宮崎の原木市場まで買いあさっています。

そうしたことで1年に10工場の集成材工場を認可したら如何でしょうか、ただし、大型工場、年間1万5千m<sup>3</sup>生産できる工場を1年間に10工場づつ3カ年計画で30工場を作ってください。そうしますと45万m<sup>3</sup>の国産集成材が供給できますよ、それをラミナにしますと1万5千m<sup>3</sup>だからいくらになりますか、約3万m<sup>3</sup>のラミナが必要になってきます。スギの原木はどうかと言いますと50%の歩止まりでその倍要ります。立木の歩止まりからいきますと敵寸から75%かけると大体8万m<sup>3</sup>の立木消化につながります。30工場で240・50万m<sup>3</sup>の収穫につながるんじゃないか、それが地域振興の一助になれば幸いだなど、現実にそれが現在来ております。

今、売れない時代に大変なんです。作るのが大変です。納入日を嘘言うわけにはいかないんだ。だから今、木材産業でこれだけ売れる商品がどこにありますか。こんな恵ま

れた境遇を先取りしなきゃならんです。幸いにも秋田県北センターでは15年度の申請で約12億の総投資額で始めたいと、それでいいんです。いくら林業県の秋田といえども一步間違えば1年で1億円以上の赤字額を計上します。三陸木材が事実それでした。私が受けたときには1億2千数百万の累積赤字がありました。それにまだプラス $\alpha$ がついておりました。上り坂は非常なエネルギーがいります。2倍じゃないんです、4倍から5倍のエネルギーを必要とします。だから一日一日キチンとした姿勢を持たなかったら経営というものは成立しないわけでございます。実直にまじめにやれば成功するかと言えそうじゃないんです。やはり人を使えなければだめ、先見性がなかったらだめなんだ。決断とそして実行力がなかったら今の時代企業家としては成立しないんじゃないか、人のやった後を見ながらその足跡を踏んでも何も得るものはないんです。だから人より先に進むこと、危険度もありますけどやはりそれが先見性です。そうした自信を持つだけのノウハウを蓄積しなくては、何のために生きてきたんだかということを責めなくなるんでございます。

まあ、いずれにしても2年間で私は再建請負人として受け取りましようとして受け取ったわけでございます。2年3ヶ月後に大体これは行ける、12月か3月にはバトンタッチをしたいですよ、そういうことで辞表を提出したわけでございます。それで急遽前理事長としてありましたけどこんな名前なんかどうでもいいんです。如何にして立て直すか、70歳にしてなんでこんなに私が苦勞して汗をかかなきゃならんかと。

(三食昼寝付きで暮らす老後設計の別荘も空き家と化す一世に必要とされる人になれ)

岩手県の水沢の森林管理署の管轄ですけど、あそこに呼ばれて講演をしました。見まわすと茶髪が一人もいなかったんです。珍しいとこだなと。うちに今パートさんが6・7名います。該当職員たるや40名近くおります。平均年齢23歳です。非常に若い工場です。22歳で第二工場の工場長に抜てきしたのがおります。実力主義です。うるさい理事長が来たと言うことで皆さん全部髪は黒くしてコリコリにしているんです。私はそれは責めないよ、茶髪・金髪好きなようにやってきなさいよと。ただし、営業とか事務所はこれは遠慮してもらいます。そういうことでピアスもやっていいですよ、そのエネルギーを仕事にぶっつけてくれないかと。次の日見たら半分以上が茶髪から金髪から銀髪なんです。ラモスみたいな頭にしてきたのもおるんです。だからそれが若さなんです。けして伸びようとするものを押さえてはならないんです。それは私が20歳の時から現場を預かって人を動かし、人の根性をよく学んできたわけでございます。だから私の言うことは何でも聞くんです。専務には気の毒だけど何一つ注文が行かないです。理事長さんこうしてください。このようにしてください。よしよし聞けることはなんぼでも聞くぞと、だから1年1回私は、無理言った償いに40坪の別荘に全員を呼んで腹一杯新潟の銘酒「越の寒梅」を飲ますんです。これが2年間続きました。そうしてこの暮れには酒はくれるけどマイクロバスなど金もかかるから一つホテルでやりましようと言うことでホテルで開かしてもらいました。

「アメと鞭」とこちらの課長さんですかそんなこと聞いたような記憶があるんですけど、そんなことじゃないんです。アメと鞭ではないんです。やったものに対する報酬なんです。私の気持ちなんです。18・19歳で入ってきます。はい今年の成人は何人いますかいというと大体5・6人手を挙げるんです。じいちゃんが、成人になったんだからお祝いしてくれるよと言って金一封づつ全部にくれるんです。それが親心なんです。厳しいけどやはり人を育てなきゃならんです。物作りは人作りから始まるのが鉄則でございます。そうしたことで私の言うことを聞いてくれる人はそれなりに評価します。頑張ってもできない人、能力の落ちる人はいるけどそれはそれなりに認めます。能力あってやらない人ほどずるい奴はないんだ。あんたは何時やめてもいいんだよ、根性入れ直してからもう1回来てもいいんだよと。いや辞めません。理事長の後をくつついて行きます。辞めろと言っても辞めないんです。まあそうしたことで若い人を造り上げていくんです。今辞める子はほとんどいないです。一生懸命です。だからたまには、おいこらピアスやってんだかと、みんな髪の毛長いんです。髪上げてやっていますと見せる。小さいの一つやっているんです。これじゃ目立たないよ、あんたを大きく見せるためにも二つか三つぶらさげれと言うんです。それだけ自分を大きく見せるように、仕事も見てくださいというように、評価してもらえよう前向きの姿勢というか自分から売るんだよと言うんですかね、そういうことで人材はどんどん育ってきています。

若い工場だけに1年にして係長の辞令をもらう者があるんです。先輩を追い越してもいいよ、けして私は年功序列は問いませんと、だから22歳の工場長も誕生しているんです。たった3年生ですこれでもね。そうした中で若い連中と一緒に汗を流しながら造りあげたのが現在の三陸木材高次加工協同組合です。だからほとんど累積赤字も一掃できるところです。これは景気に左右されますから断言はできませんが目途はつきました。

昨日も林野庁の方が3名見えまして、ここまで忙しいなら後はどうするんだ、もう一つ工場を作ってもらいますと、次々に部課長のヒアリングだなんだかんだでなくて、この現地を見ておるんだから要請があったら一発で認可をしてくださいとそんな馬鹿を言いながら、私の子供よりまだ年下のお役人さんに、私は土までつくように最敬礼をします。そうするとおかしいと大笑いをするんですけど。やはり気持ちが表れなければならんです。銀行へ行って金を借りるのもそうです。だから私は人様に「はんこ」を一つもついてもらった記憶はございません。力がないと認めること、悔しかったら強くなれ、他人に頼るな、自分に叱咤激励しながら今日まで来たわけでございます。でもこの根性は死ぬまで直らないと思います。そうしたことで「三陸木材」もここに生長してきました。

丸太はいくら切っても売れない、なんとかしなきゃならん、よし、それじゃラミナ工場を作ろうじゃないかと。森林組合長あんたの仕事だから集めて纏めなさいと言ったら、3ヶ月たって私の事務所に来たりプレカットの事務所や県の事務所行ったり、クルクル、クルクル歩いているんです。その当時の部長が、あの男では纏めれない駄目だよ、



中川さんあんた纏めてやってくれ。そういうことで一応検討委員会と言うことで、大槌・気仙川流域の素材・製材業界、森林組合の方々に集まって頂きまして、今日決めなくていいんだよ、100%の合意の下にこれは進めていくんですからそんなに急ぎませんよと、ゼスチャーをしたわけです。ある組合から多数決で決めたらどうかと、いや、そんな必要性は無いんだ、急ぐことはないのだと言っているうちだんだん纏まりかけてきたんです。製材業界は大反発です。大型工場ができると丸太が高くなると。我々の所に高い丸太を押しつけられるはめになるんだということで反発もございましたけど、最後の男に言ったことは、流域の振興を考えるのか自分の製材所の生き残りを考えるのかいったいどっちをとるんだと、最高学府を出てきているんじゃないか、いやしくも慶応まで出してもらったおぼっちゃんじゃないか、あんた、みんなの前でどう選択するんだかはっきりしなさいと言ったら、いや、やっぱり流域無くして我々も立つことはできません。そういうことで一発で検討委員会で決定を見たわけでございます。そうして早速組合の設立でございます。森林組合とプレカットと三陸木材と素生協それしかないんです。製材協はないですから組合は。そうした中で、じゃあ今度は出資金が足りないんだがどうしたらいいんだらうかと、じゃあ足りない分は俺が全部持ってやるからそのようにしなさいよと言うことで、設立当時私の付加金は素材協同組合とやや匹敵するまでに負担をしなきゃならん。それが地域への恩返しです。そうでなければリーダーシップはとれないです。纏めるときには纏めるタイミングがあります。

そうして明日から本機が入ってきます。乾燥機はもう付きました。ギャングリッパーも付きました。工場全て建設は終わりました。あと10日間で機械の設置は終わります。これが日本最初のギャングリッパーの板挽き製材です。1回に30cm幅に太鼓に落とした10枚のラミナが出てきます。今、ノーマンでm3 6000円位かかっているんじゃないですか、製材費が。それが棧積みまで出てきて3000円で上がる状態に開発を進めました。もうすぐ日刊新聞から写真入りで発表になるでしょう。m3 3000円でラミナが供給されます。そうしますと3000円が浮くんです。それを山に返しませうと、m3 3000円返したら今までの山主さんもそれじゃ売ってもいいよと。

流域の4企業体「木加連」「プレカット」「三陸木材」「ランバー」が順調に稼働すると50億の売り上げとなり、流域内の循環型資源の活用によりその経済効果は5~6倍と言われるだけに、大船渡市の年間予算を上回る経済効果をもたらす。若者の雇用200名は過疎対策も併せ地域振興への効果は非常に大きいです。

更新も必要です。いつまでも眺めているわけにはいかんです。やはり森林の公益機能を最大限に発揮するには適時の収穫をしなればなりません。今非常に苦労しているのは、私の肌と同じにアバタモエクボというよりアバタばかりです。全部真っ黒になっています。それをおばちゃん達が節穴を埋めたりしなきゃならんとえらい手間をかけたるんです。これが今まで遅れた施業対策です。

これから気仙流域は日本一の流域を目指すんだと言うことで「三陸ランバー」は、ワ

ンシフトというので昼勤だけです。昼勤だけで大体月1200 m<sup>3</sup>の計画でございます。ツウシフトももうすぐ敷きたいと言うことでございますから月2400 m<sup>3</sup>位のラミナの生産はしたい。原木はどれだけ要りますか、その倍です。月5000 m<sup>3</sup>要るんです。立木収穫にそれが適寸です。だから一年7万から8万 m<sup>3</sup>の立木収穫に繋がることは事実です。これがやはり流域の発展です。

それじゃ平成5年に設立されたプレカットはどうかと、暇どころじゃないんです。材工パックです。材工パックってわかりにくいでしょうけど、材料と工賃と加工賃もそうなんです。大工も供給しているんです。壁パネル、床パネルも作っているんです。屋根パネルも造っています。そのパネルの材料となる粹材が集成材のハネ品です。ハネ品で栈木を作ったりします。全てを活用するんです。住宅1棟分の供給です。プレカット工場は15年度は20億の売れ上げの計画です。1000棟やろうという意気込みですからね。そうしたのはいずれ山からこの流域システムの3つの生産企業体の一つになって住宅を供給する、山からの住宅供給時代です。今ハウスメーカーで丸鋸を持ったり、げんのをもったり釘打ったりしては絶対入れません。やはりゴムのハンマーです。全て組み立てで、それを加工して運ばばいいんです。それがこれから求められる流域のシステム化です。

能代に木屑焼却の発電が今オープンされました。「三陸木材」でも木屑ボイラー、林地残材ボイラーの発電をしたいんだと、大体月300万円かかります、電気料。三陸ランバー製材工場も約300万円かかるんです。プレカットが大体150・60万円かかるんです。そうした中で膨大な蒸気がほしいんです。そのために発電をしたいんだと。貧乏町ですから金がないんです。能代は1億円ポンと出してくれたそうなんですが金がないんです。それじゃあと某県会議員にお願いしまして岩手県の特産品として発電をやってくれないか、今まで応援したんだから今度はそれくらい、あなたの金使うんじゃないから県会議員汗を流してくれよと言うことで。この間私の誕生日にお祝いに寄ってくれて腹一杯騒ぎまして、約束は約束として必ずこれは全うしますから心配しないで、それまで社長生きておってくれよと、死んじゃ大変だよと言うことで逆に諭されました。日本一の流域を目指して今取り組んでおります。もう寸前でございます。

秋田県の県北センターでもスタートすると言うことを聞いて本当にうれしく感じております。そうして明日は平鹿地区へ呼ばれています。グリーンから乾燥材への転換をしていきたいんだと、そういうことでこの間見えまして一つの土俵で戦った場合、あなた達集成材に勝ち目があるんだったらやればいいよ、我々はいつも販売員が出ています。その中で15%まで脱水することは不可能だよ、ましてあの地区はヘソ曲がりばかりの木です。私はあなた達の所に買いに行ったことはないですが、林相が最悪の地帯です。B材ばかり出るところだからうまく生かすのが集成材なんですと。そうしたことで明日は平鹿地区で、何もいらんことは言わなくてもいいんです。集成材の有効性さえ説明してくればいいんですと言うことなんです。出来ることなら16年度スタートしたいと。

けっして後から出る人を拒みません。どんどん作ってください、それが私の日本の森林・林業の一つの転換部門、活用部門としてこれから国産材時代をもう一回、皆さんとともにこの手で取り戻してからあの世へ大手を振って行きたいなあと、それが一生の願望でございます。

また、私ここで大変恐縮ですが「成長への挑戦」という本をこの間出版をしました。日刊木材新聞が発売元になっております。しかし、何百冊か私は贈答用に頂戴と言うことでもらいました。この虎は私の本当の支援者です。男の子供がいません。遅くできた女の子供一人です。だから相談相手がないんです。相談相手は数百万する虎しかいないんです。一目見ただけで何をいわんかがわかります。こうした姿勢に私は叱咤激励されて今日まで生きて参りました。ワシントン条約では私の乗っているベンツより高いです。今、この虎に感化されて私の人生があったことも否めないわけでございます。そうした中で「座して死を待つか戦って生きる道を探るか」ということで、色々森林・林業の公益性、また理事のおっちゃん達よしっかりせよなんて、腹一杯悪口を書いてあるんです。これを、「三陸ランバー」の落成祝賀会にお土産として進呈したいと言うことで話しておったら、金で買わなきゃ心が通わないからもらうことはいやです。買いますからこれを記念品として皆さんに配布したいと言う希望がございました。一つこの根性の悪い奴がどんなことを書いたんだと、読まないうちは皆さん期待感は大きいでしょうから、ひとつ金3000円で日刊新聞で販売しているそうです。是非ともここに支局がありますからどんどん取り寄せて買って読んでください。明日の日かも成功の途に着かれる筈でございます。

20年前に大好評の「おしん」少女編をNHKで再放映中です。孫の圭三を連れて奉公した懐かしい土地を訪ね、今の不自由のない生活よりあの厳しい時代「家族に米を、生きるために幸福を求めて働いた当が一番幸福だったなあ …」と回顧の言葉に、つい自分を描写して、真冬の寒さで凍てつく指に息吹きかけ、冷たい谷川の水で洗濯、震える体をこする夜「他人の飯」の厳しさ昨日の事のように鮮明に蘇る。 // 頬を伝う一筋の涙 // 皆さんにも人生を懐かしく回顧できる人となって欲しいと思います。

そういったことではなはだ取り留めのないお話で終始しましたけどこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。